

梶内曾次郎関係文書目録

2021年3月

国立国会図書館憲政資料室

目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています

国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」

(<http://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>)

凡例

- 資料は作成者（書簡の発信人）の五十音順に配列した。
- 年月日が推定可能なものについては〔 〕を付して記載した。

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
1	安保清種書簡 栃内曾次郎宛	安保清種	栃内曾次郎	大正5年2月29日	数量 1通 内容 海軍本省棒給、榛名より本射を試す、潜水艇（寒麻林）の件の進捗、小栗の同情者 記述法 ペン	あり
2	伊集院五郎書簡 栃内曾次郎宛	伊集院五郎	栃内曾次郎	明治43年1月5日	数量 1通 内容 病気見舞の礼状 記述法 墨書	あり
3	伊東祐亨書簡 栃内曾次郎宛	伊東祐亨	栃内曾次郎	明治40年12月15日	数量 1通 内容 品物の礼状、ポクレスキー氏より紹介状、本紙は野村へ送付 付属資料 名刺（伊東祐亨）、印刷[活版]、1枚 記述法 墨書、鉛筆 備考 名刺の裏に記述あり	あり
4	岩崎勲書簡 栃内曾次郎宛	岩崎勲	栃内曾次郎	大正8年7月17日	数量 1通 内容 礼状 記述法 墨書	あり
5	上田恭輔書簡 栃内曾次郎宛	上田恭輔	栃内曾次郎	大正12年4月23日	数量 1通 内容 古代埃及（エジプト）の土器・陶器標本の件 記述法 墨書	あり
6	大岡育造書簡 栃内曾次郎宛	大岡育造	栃内曾次郎	5月16日	数量 1通 内容 長府より下関間海岸施設整理に付長府町長草田政継を差出候 記述法 墨書	あり
7	大角岑生書簡 栃内曾次郎宛	大角岑生	栃内曾次郎	大正6年12月14日	数量 1通 内容 海軍省副官を辞するにあたっての挨拶 記述法 墨書	あり
8	大角岑生書簡 栃内曾次郎宛	大角岑生	栃内曾次郎	大正7年5月14日	数量 1通 内容 先般山川参事官来訪、爾後の形勢に関しては加藤司令官より報告、沿海州自治会及び市会の過激派による占領について 記述法 墨書	あり
9	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	明治44年12月19日	数量 1通 内容 行政整理、他省との釣合も有之べきなれども 記述法 墨書	あり
10	加藤友三郎書簡 山屋他人、栃内曾次郎宛	加藤友三郎	山屋他人、栃内曾次郎	〔大正9年〕3月10日	数量 1通 内容 昨夜の政調懇談会の模様にては、出兵問題を実行するの決心は生じ得へしとは思はれざる状況、浦塩に対する諸準備 記述法 墨書	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
11	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	〔大正〕7月21日	数量 1通 内容 一昨日貴官にお渡し候外調書類（「タイプライター」の説明書多数附属し居りたる分）を此者へお渡しくださるべく候 記述法 墨書	あり
12	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	7月25日	数量 1通 内容 本日の海員掖済会遅れたるときは誰か祝辞を代読せしめられたし、明日の横須賀行は貴官を煩したくご依頼申上げ候なり 付属資料 加藤友三郎書簡、1通 記述法 墨書	あり
13	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	〔大正7～8年〕4日	数量 1通 内容 藤井大將は急変斗難き様に思われ、依って人局長をして万一の場合の準備を考えしめ置かれたし 記述法 墨書	あり
14	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	5日	数量 1通 内容 外国武官招待の件は大使以下を入るるや、陸軍にては決定しおるものにはあらずとの事 記述法 墨書	あり
15	加藤友三郎書簡 栃内曾次郎宛	加藤友三郎	栃内曾次郎	〔大正8年〕12日	数量 1通 内容 ウィルソン十四ヶ条中海上自由問題を至急研究されたし 記述法 墨書	あり
16	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	大正4年9月22日	数量 1通 内容 寄せ書き 記述法 墨書	あり
17	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	大正4年10月10日	数量 1通 内容 詩、礼状、当隊にも気障な人間がおり、先便の通り海軍より速かに葬り候 記述法 墨書	あり
18	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	大正4年11月15日	数量 1通 内容 転任挨拶、新情報もあれば勤報急ぎに申上げたく 記述法 墨書	あり
19	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	大正7年8月21日	数量 1通 内容 大谷司令官来着の際は指揮権問題の決定せざるに係らず、先着の米陸軍司令官を帯同し訪問の上、自分等には未だ華盛頓より何等の訓令なき 記述法 ペン	あり
20	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	5月31日	数量 1通 内容 昨夜は近來の快宴、鹿嶋幕僚の子は小生負担の筈のところ全部お払いくださる候由 記述法 ペン	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
21	加藤寛治書簡 栃内曾次郎宛	加藤寛治	栃内曾次郎	9月30日	数量 1通 内容 昨今の形成は日米の正面衝突か英米の暗闘に転換、出発に先んじ急ぎ拝答迄 記述法 ペン	あり
22	上山満之進書簡 栃内曾次郎宛	上山満之進	栃内曾次郎	大正7年2月11日	数量 1通 内容 お見舞い仕らず失礼、本日紀元節にて参内盛饌頂戴、一折持せ差出候 記述法 墨書	あり
23	黒井悌次郎書簡 栃内曾次郎宛	黒井悌次郎	栃内曾次郎	大正2年4月18日	数量 1通 内容 無事の帰航お祝い申上げ候 記述法 墨書	あり
24	黒井悌次郎書簡 栃内曾次郎宛	黒井悌次郎	栃内曾次郎	大正3年10月14日	数量 1通 内容 目下重砲の準備期にて、山屋枝隊の発展結構なり、然し世界図を展じて占領地を検すれば虫眼鏡が入用 記述法 墨書	あり
25	黒井悌次郎書簡 栃内曾次郎宛	黒井悌次郎	栃内曾次郎	大正7年6月26日	数量 1通 内容 負傷後始めての親書、筆跡変わらず安心、近来内地からの来客多し 記述法 墨書	あり
26	黒井悌次郎書簡 栃内曾次郎宛	黒井悌次郎	栃内曾次郎	大正10年8月6日	数量 1通 内容 作業完施のご配慮 記述法 墨書 用紙 葉書	あり
27	源田実書簡 栃内曾次郎宛	源田実	栃内曾次郎	14日	数量 1通 内容 お尋ねの年限は経費の都合上引き延され、大正十一年度と相成り居候 記述法 墨書	あり
28	小林躋造書簡 栃内曾次郎宛	小林躋造	栃内曾次郎	26日	数量 1通 内容 渡辺氏著書のお礼、ご令息学位受領のお祝い 記述法 墨書	あり
29	小村欣一書簡 栃内曾次郎宛	小村欣一	栃内曾次郎	11月5日	数量 1通 内容 鳥羽造船所主任工学士榎本卯平氏、閣下との面会希望 記述法 墨書	あり
30	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	明治40年5月28日	数量 1通 内容 トレーシー大将の写真領収仕候、此の書山本大将が英国を去る前に到達候はば、よろしくご伝言希望仕り候、伊集院艦隊も数日の内には「シーヤネス」着の予定 記述法 墨書	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
31	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	大正4年8月27日	数量 1通 内容 行政整理による余剰金の行方、海軍充実でなく二個師団増設に使用されるのは言語道断 記述法 墨書	あり
32	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	大正8年10月6日	数量 1通 内容 先般野村大佐ご派遣下され誠に好都合、排日思想、独立論は弥漫し陸軍増派の外策なし、今回は諏訪造船大佐ご派遣感謝、お返事を待つうちに沈没船十分に転覆、この工事は海軍に引き受けていただきたく 記述法 墨書	あり
33	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	大正9年7月15日	数量 1通 内容 加藤少将朝鮮視察としてのご派遣実行お取り計らい願う、雑誌大日本の議ご同情下され候趣 記述法 墨書	あり
34	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	2月23日	数量 1通 内容 安場中尉と三め子（栃内曾次郎娘）の婚礼を早めたい 記述法 墨書	あり
35	斎藤実書簡 栃内曾次郎宛	斎藤実	栃内曾次郎	8月20日	数量 1通 内容 小原信次氏（仙台の人）軍需品製造に関係致居候につき、ご引見なしくだされたく 記述法 墨書	あり
36	坂本俊篤書簡 栃内曾次郎宛	坂本俊篤	栃内曾次郎	大正4年11月30日	数量 1通 内容 神戸港に於ける軍艦拝観の礼状 記述法 墨書	あり
37	島村速雄書簡 栃内曾次郎宛	島村速雄	栃内曾次郎	大正9年12月4日	数量 1通 内容 長門からの転職祝いへの礼状 記述法 墨書	あり
38	鈴木貫太郎書簡 栃内曾次郎宛	鈴木貫太郎	栃内曾次郎	大正2年8月27日	数量 1通 内容 第二艦隊司令官着任の祝詞への礼状及び近況報告 記述法 墨書	あり
39	鈴木貫太郎書簡 栃内曾次郎宛	鈴木貫太郎	栃内曾次郎	大正7年7月6日	数量 1通 内容 布哇産パインアップル進呈仕候 記述法 墨書	あり
40	鈴木貫太郎書簡 栃内曾次郎宛	鈴木貫太郎	栃内曾次郎	大正11年8月23日	数量 1通 内容 呉鎮守府司令長官着任の祝詞への礼状及び近況報告 記述法 墨書	あり

栢内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
41	財部彪書簡 栢内曾次郎宛	財部彪	栢内曾次郎	〔大正6年〕12月25日	数量 1通 内容 各所の巡視も数隻の軍艦を除きては大體結了、鎮守府機密費の必要を感ずること少なからず 記述法 墨書	あり
42	財部彪書簡 栢内曾次郎宛	財部彪	栢内曾次郎	大正8年2月4日	数量 1通 内容 榛名かなり多数の寒(感)冒患者、艦隊鎮守府両方当事者の尽力により喰い留めたるらしく 記述法 墨書 備考 書簡前半は欠損	あり
43	谷口尚真書簡 栢内曾次郎宛	谷口尚真	栢内曾次郎	大正10年6月22日	数量 1通 内容 蔬菜御礼 記述法 墨書	あり
44	出淵勝次書簡 栢内曾次郎宛	出淵勝次	栢内曾次郎	大正3年9月29日	数量 1通 内容 膠州湾沖出動とは夢想だにいたさざりし、北京の政局、今回の地位は小生に取らせては甚だ栄転、身体を丈夫にし出来るだけの事をやりたい 記述法 墨書 備考 書簡末尾に「熱田皇大神宮御守」が貼り付けられている	あり
45	出羽重遠書簡 栢内曾次郎宛	出羽重遠	栢内曾次郎	大正4年11月30日	数量 1通 内容 大沼龍太郎の癌種の件ご同情感佩の到り 記述法 墨書	あり
46	出羽重遠書簡 栢内曾次郎宛	出羽重遠	栢内曾次郎	1月6日	数量 1通 内容 過日常盤艦内に於いて非常なる出来事あり、何とか事穩便に秀島氏も帰艦せらるるよう貴君のご意見相伺い候 記述法 墨書	あり
47	出羽重遠書簡 栢内曾次郎宛	出羽重遠	栢内曾次郎	3月31日	数量 1通 内容 小官名刺調製の件 記述法 墨書	あり
48	徳川家達書簡 栢内曾次郎宛	徳川家達	栢内曾次郎	大正11年5月13日	数量 1通 内容 絵葉書お礼、ご健勝を祈る 記述法 ペン 用紙 絵葉書	あり
49	床次竹二郎書簡 栢内曾次郎宛	床次竹二郎	栢内曾次郎	12月23日	数量 1通 内容 来総選挙ご尽力仰ぎたく、そのため栢田君差し出し候 記述法 墨書	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
50	名和又八郎書簡 栃内曾次郎宛	名和又八郎	栃内曾次郎	大正2年4月11日	数量 1通 内容 遠航の重任を了されん閣下を歓迎愉快に感ずるところにござ候、このたび上海に御入港及び接待見学等の義に就ては増田中佐の斡旋によりたる 記述法 墨書	あり
51	名和又八郎書簡 栃内曾次郎宛	名和又八郎	栃内曾次郎	大正5年1月3日	数量 1通 内容 新年の挨拶、仰せの如く大臣の対議会は誠に感服、大兄のご補助もまた大なるべく、支那の風雲も穏かならざる報道竜頭蛇尾に終わるか、陸軍の計画はあながち無根と申されず、用心肝要 記述法 墨書	あり
52	名和又八郎書簡 栃内曾次郎宛	名和又八郎	栃内曾次郎	大正5年11月2日	数量 1通 内容 上村少将の義、伊勢進水式の節消息漏れ聞き候 記述法 墨書	あり
53	名和又八郎書簡 栃内曾次郎宛	名和又八郎	栃内曾次郎	大正8年10月24日	数量 1通 内容 返書大延引、次男瀕死の状態につき出席は難しい 記述法 墨書	あり
54	野村吉三郎書簡 栃内曾次郎宛	野村吉三郎	栃内曾次郎	〔大正2年〕4月23日	数量 1通 内容 山梨中佐転任を機会とした晚餐を催すに付ご出席をお願い致したく 記述法 墨書	あり
55	野村吉三郎書簡 栃内曾次郎宛	野村吉三郎	栃内曾次郎	12月25日	数量 1通 内容 御忠告なし下され候件については善後策を講じ再びせざるよう注意、議員達の貴艦見学に付書記官長と交渉中 記述法 墨書	あり
56	長谷場純孝書簡 栃内曾次郎宛	長谷場純孝	栃内曾次郎	〔明治42年〕8月7日	数量 1通 内容 無事の帰朝祝意を表し、麦酒と鯉節を贈る 記述法 墨書	あり
57	長谷場純孝書簡 栃内曾次郎宛	長谷場純孝	栃内曾次郎	明治42年9月1日	数量 1通 内容 英国駐在中に蒐集の英国国会議事堂建築に関する委員報告書類の議院への寄贈に対する礼状 記述法 墨書	あり
58	百武三郎書簡 栃内曾次郎宛	百武三郎	栃内曾次郎	大正4年4月24日	数量 1通 内容 無事の帰朝大慶此事、唯時期遅れ閣下の雄心南米一孤島の夢と化し 記述法 墨書	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
59	百武三郎書簡 栃内曾次郎宛	百武三郎	栃内曾次郎	大正11年3月25日	数量 1通 内容 駆逐艦遭難遺憾、昨日の編隊航行実験について 記述法 墨書	あり
60	平賀謙書簡 栃内曾次郎宛	平賀謙	栃内曾次郎	大正15年11月23日	数量 1通 内容 叙勲祝詞お礼 記述法 墨書	あり
61	福田雅太郎書簡 栃内曾次郎宛	福田雅太郎	栃内曾次郎	大正5年10月29日	数量 1通 内容 親艦式の際、一時人事不省に陥り申し候際は特にご高配を賜り深謝の至り 記述法 墨書	あり
62	松平恒雄書簡 栃内曾次郎宛	松平恒雄	栃内曾次郎	大正8年6月2日	数量 1通 内容 過般依願の件、深謝仕候、出立前一寸参上仕候へ共会議中にて直接お暇乞も申上げられず候 記述法 墨書	あり
63	松平恒雄書簡 栃内曾次郎宛	松平恒雄	栃内曾次郎	〔大正9年〕12月1日	数量 1通 内容 帰朝転任祝詞お礼、栃内式ご挨拶（新聞画）多謝、近来日本万事進歩いたしおり候へども新聞写真術は聊か拙劣 記述法 墨書	あり
64	南弘書簡 栃内曾次郎宛	南弘	栃内曾次郎	6月20日	数量 1通 内容 南洋布教の実行に関し貴省に於て各関係者ご会合の事至極適當 記述法 墨書	あり
65	村上格一書簡 栃内曾次郎宛	〔村上格一〕	栃内曾次郎	〔大正〕2月13日	数量 1通 内容 来月行啓の際、潜水艦の潜入法等をご覽に供せらるるご計画ござ候や 記述法 墨書	あり
66	村上格一書簡 栃内曾次郎宛	村上格一	栃内曾次郎	〔大正〕7月21日	数量 1通 内容 周防の珍事面目次第もなき事に候右の顛末ご承知無き趣、他長官方にもお知らせ致す方可然とやっと気付き 記述法 墨書	あり
67	八代六郎書簡 栃内曾次郎宛	八代六郎	栃内曾次郎	明治43年3月6日	数量 1通 内容 村松恒一郎議員による質問演説（戦闘艦の海外発注におけるコミッションの受け取りについて）への反論および海軍省の対応についての問い合わせ 記述法 墨書 備考 書簡に返書草稿が貼り付けられている	あり
68	山下源太郎書簡 栃内曾次郎宛	山下源太郎	栃内曾次郎	大正8年3月22日	数量 1通 内容 海軍海図に千々石海の名称を記入し海図及び水路誌に橋中佐銅像の所在を載せられん 記述法 ペン	あり

栃内曾次郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
69	山屋他人書簡 栃内曾次郎宛	山屋他人	栃内曾次郎	大正8年4月13日	数量 1通 内容 当隊日本海巡航に付ご配慮下され、ご希望に基き三地予定錨地複写の上細目を書き入れ同封いたし置候 記述法 墨書	あり
70	山屋他人書簡 栃内曾次郎宛	〔山屋他人〕	栃内曾次郎	6月4日	数量 1通 内容 本日司法長官より始末書返戻し来り、元来森に取りては立野方西の方よりは義理ある婿に当たり、今回は立野より責任ある始末書提出に到るに付宜敷ご尽力お願い申上候 記述法 墨書 備考 封筒なし	あり
71	山本権兵衛書簡 栃内曾次郎宛	〔山本権兵衛〕	栃内曾次郎	6月2日	数量 1通 内容 本日午後葬式、西郷侯夫妻よりの招待状 記述法 墨書 備考 書簡前半は欠損	あり
72	山本権兵衛書簡 栃内曾次郎宛	〔山本権兵衛〕	栃内曾次郎	6月10日	数量 1通 内容 準備に関する訓令は別紙電信案の通り、名義は素より種々訓令等の都合もこれあり候 記述法 墨書 備考 書簡前半は欠損	あり
73	桂太郎書簡 栃内曾次郎宛	〔桂太郎〕	栃内曾次郎	6月15日	数量 1通 内容 御廻ならせられ候親展極密書まさに落手致候なり 記述法 墨書 備考 封筒は山本権兵衛、中身は桂太郎書簡	あり
74	山本権兵衛書簡 栃内曾次郎宛	〔山本権兵衛〕	栃内曾次郎	7月10日	数量 1通 内容 報告書類まだ充分に査閲致しかね候分を除き返却に及び、明日出勤の際までにはぜひ一覽いたすべく候 記述法 墨書	あり
75	米内光政書簡 栃内曾次郎宛	米内光政	栃内曾次郎	大正3年8月18日	数量 1通 内容 お申し聞きの次第は陸軍の連中と会飲の機会に於て談合の結果ご報告仕度 記述法 墨書	あり
76	米内光政書簡 栃内曾次郎宛	米内光政	栃内曾次郎	大正15年12月12日	数量 1通 内容 転務祝詞お礼 記述法 墨書 備考 書簡冒頭部分に欠損あり	あり